

作業療法場面における環境面に対するリスク管理について

作業療法士学科昼間部

【はじめに】

これまでの授業や実習を経験する中でリスク管理の必要性を感じ、今後のために学ぶ必要性を感じた。これまでの研究では、非熟練者（経験年数3年以下～作業療法学生1・4年生）は熟練者（5年目以上）よりリスク認知の差異が大きいとある。また、車いすからのベッドへの移動時や訓練中の運動に伴う骨折や転倒・転落が多いという調査結果が出ている。このことから移乗時における熟練者の環境面に関するリスク管理について調査する。

【対象および方法】

臨床で身体障害の分野に関わっている熟練作業士13名を対象とした。本研究はアンケートによって行い、内容は片麻痺患者において『車椅子からベッドへ移乗してもらう際の環境面』におけるリスク管理について気を付けている点等であり、自由記述で分析方法は内容分析を用いた。本研究はアンケートにて『片麻痺患者において車椅子からベッドへ移乗してもらう際の環境面におけるリスク管理について気を付けている点』を自由記述で記載してもらう。その記述を分析方法は内容分析を用いてカテゴリに分類した。

【結果】

6名から回答があり（回収率46.2%）、28の記述が得られ分析対象とした。分類した結果、次のカテゴリに分けられた。

- ・車椅子 (7)
 - フットレストにタオルを巻く (3)、フットレストを取り外す (2)、置く場所を考える (2)、ブレーキの確認 (2)、アームレストを跳ね上げる (3)、非麻痺側をベッド側に来るように車椅子をセッティング、手すりの有無 (2)
- ・ベッド (3)
 - 高さの調節 (3)、配置
- ・ルート類 (2)
 - 点滴の管理 (2)、モニターの管理
- ・動作時 (8)

下肢の位置のセッティング (2)、臀部を浅く座る、ベッドからのずれ落ち、左側、右側、前側への転倒、擦過傷、膝折れ

【考察】

移乗場面におけるリスク管理として、大別すると心身機能・活動・環境に関する回答が得られた。

回答において同一内容が複数あるものがあつた。その理由としてリスク管理において必ず確認しなければならないポイントがあるためではないかと考える。また、今回の研究において回答者数が少ないものの特に車椅子に関する内容が多く、まず第一に確認すべきところであると考えられる。

【まとめ】

渡辺¹⁾によると現場で働いている職員は危険を予想して行動することが必要。実際にヒヤリハットやアクシデントが発生する前に具体的な防止策を取るべきと記している。このことより、リスク管理が未熟な非熟練者でも熟練者と同じ視点が必要だと考え、今回の結果よりいくつかのリスク管理における必要なポイントが明らかになった。

今後はさらに回答者数を増やし更にリスク管理の視点を聴取し、安全な状況で対象者様と関わる環境をつくりたい。

【文献】

- 1) 渡辺朝晴：リハ特化型デイサービスおよび有料老人ホームの職員に対する危険予知トレーニング (KYT) による安全管理意識の変化について。第51回日本理学療法学会抄録集 43 (2), 2015.